

令和三年

## 新年のご挨拶



一般社団法人 富田林医師会

会長 宮田 重樹

明けましておめでとうございます。本年が皆様方にとって平和で穏やかな年になりますようお祈り申し上げます。

2020年は新型コロナとの闘いに明け暮れたとんでもない1年でした。昨年1月16日に国内で最初の新型コロナ患者が発生、3月から患者数が増え始め、4月7日に7都道府県に4月16日には全国に緊急事態宣言が発令されました。東京オリンピックも医師会創立70周年記念式典も開催できなくなってしまいました。

当初、保健所マターでしかPCR検査ができず混乱をきたしておりましたが、5月1日から2週間会員有志の協力によって保健所でのPCR検査を実施することができました。ありがとうございました。

5月25日には緊急事態宣言が解除され、平穏な日々が戻るかと思いきや7月中旬から感染者が増え第2波がやってきました(8月7日1607人)。その後500人前後で下げ止まり状況でしたが、10月下旬から増え始め、第3波が到来し、12月12日には3000人を突破しました。17日には東京の感染者数は800人を超え、GoToトラベルキャンペーンの全国一時停止が決定。入院患者が増え、医療崩壊が近づいてきています。

「診療・検査医療機関」の指定が進んだことから、11月24日より新型コロナウイルス感染症を疑う場合等の受診相談体制を、これまでの保健所に相談する仕組みに加え、かかりつけ医などの身近な医療機関において相談できる体制に変更されました。

富田林医師会管内では多くの先生が新型コロナ検査の集合契約に協力して頂き、かかりつけ患者が有症状になった場合は従来通り診療して下さる医療機関も多く、地域医療に貢献して頂き大変感謝しております。

自宅療養者が増えると開業医の役割が益々重要になってきます。今年前半にはワクチン接種が始まるかもしれません。全国民に2回接種するとなると大変な事業です。多くの先生方のご協力がなければ達成できません。

専門家の叡智を集めて国難を切り抜けねばなりません。そして、医療従事者それぞれができることを肅々と全うし、新型コロナと戦う多くの方々のご尽力によって以前のような平和で穏やかな社会に早く戻ると信じています。

それまでの間、コロナ禍が落ち着くのをただただ待つのではなく、今できることを行っていき、一歩進んだ医師会に変わるよう努力致します。先生方のご健勝を心からお祈り申し上げます。

